

# 全国学力・学習状況調査報告 (6年)

5月27日に全国の6年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりました。結果から考えられる本校児童のよさや、今後の手立てなどをご報告します。

〈国語〉

## よさ

- 本校の平均正答率が76%となり、全国平均の63%を上回りました。
- 設問「津田梅子についてのスピーチで話す内容について適切なものを選択する」や「面ファスナーに関する文章の中の語句と同じ使い方として適切なものを選択する」では、本校の平均正答率がともに94%となり、国語全設問で最高通過率となりました。

この結果から、目的や意図に応じて資料を使って説明することや、思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができる児童が多いことが分かりました。

〈算数〉

- 本校の平均正答率が83%となり、全国平均の70.2%を上回りました。
- 設問「二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ」「直角三角形の面積を求める式と答えを書く」「8人にジュースを等しく分けるときの式と答えを書く」などの『知識・技能』に関する平均正答率がどれも全国平均より20%高い結果となりました。

この結果から、場面から数量関係を捉えて正しく立式したり、基本的な学習内容を理解したりすることができている児童が多いことがわかりました。

〈国語〉

## 課題と手立て

- △ 文章の中で適切な語句や資料を選択する正答率の高さが見られた一方、記述式の設問の平均正答率が全体的に低く、44% (全国約30%) にとどまるものが見られました。設問「面ファスナーの仕組みや国際宇宙ステーションでどのように使われているかをまとめて書く」では、文章を要約して書くことができていなかった児童が多く見られました。

⇒ 目的や意図を明確にもち、伝えたいことをはっきりさせながら文章を構成したり、表現したりする活動を、後期に重点的に行います。また、相手意識を大切に、日常から自分の考えを要約して書いたり話したりする学習場面を多く設定するようにします。

〈算数〉

- △ 設問「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを」では、「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」では、本校の平均正答率がそれぞれ60%(全国46%)、64.4%(全国51.5%)となり、思考・判断力を問われる問題で正答率の低さが見られました。

⇒ 既習内容を生かし、自分の力で解決する場面を活動の中に意図的に増やしていきます。また、立式の意味や考え方について、自分の言葉を使って説明できるようにしていきます。

〈生活意識調査より〉

【よさ】

- 「自分にはよいところがある」が51.8% (全国38.2%)、「人の役に立つ人になりたい」85.6% (全国75.4%)となり、自己肯定感が高く、将来への目標をもっている児童が多く見られました。
- 「家で計画を立て勉強している」が44.8%(全国31.2%)、「新型コロナウイルス拡大での休校中、計画的に学習を続けることができた」が49.6% (全国29.8%) となり、家庭学習の習慣が身に付いている様子が見られました。

【課題】

- ◇ 全国平均とあまり変わらず比較的低い結果になったのは、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」でした。より視野を広げ、多様な考え方をもって生活していこうとする気持ちを育てていきます。
- ◇ ICTやコンピュータなどをさらに活用したいと回答した児童が多くいました。ロイロノートを使った学習の充実を図っているところですが、様々な教科や場面で効果的に活用していけるようにします。